

TTP ガイドラインの改訂と疫学調査

研究分担者：宮川 義隆 埼玉医科大学 教授

研究要旨

血栓性微小血管症（TMA）と溶血性尿毒症症候群（HUS）の疾患啓発動画を作成した。血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）の疫学調査は臨床個人調査票を基に行った。Minds 形式で後天性 TTP に対するリツキシマブのガイドライン作成の準備をした。

A. 研究目的

原因不明で治療法が確立していない血栓性微小血管症（TMA）の疫学調査、ガイドライン改訂、疾患啓発を行う。

B. 研究方法

疾病対策課より TTP の臨床個人調査票（2015 年～2019 年）のデータを入手した。Mind 形式のガイドライン作成を進めるため、Pubmed で TTP、リツキシマブに関する英文文献を検索した。血栓性微小血管症（TMA）と溶血性尿毒症症候群（HUS）に関する疾患啓発動画を制作した。

（倫理面への配慮）

本学の倫理委員会と利益相反委員会で承認された。

C. 研究結果

令和 2 年度に TTP と非典型 HUS に関する動画を制作した。令和 3 年度は市民を対象に、わかりやすい絵柄と解説をつけた TMA と HUS に関する動画を作成して公開した。Minds 方式のガイドラインを作成するため、TTP に関する論文 13,015 件、リツキシマブ論文が

27,340 件あり、このうち過去 10 年間に、TTP に対する英語論文は 335 件あった。

TTP 臨床個人調査票（2015～2019 年）の新規登録者数は 132 名、女性 59%、平均 60 歳、中央値 63 歳であった。血漿交換は 89%、副腎皮質ステロイドは 93%に処方されていた。

D. 考察

TTP 臨床個人調査票をもとに患者背景、治療内容を初めて解析することができた。後天性 TTP のガイドライン改訂に必要な文献を揃えることができた。

E. 結論

患者数が少ない血液難病 TMA と HUS に関する市民向けの動画を作成し、疾患啓発活動を行った。臨床個人調査票に基づく疫学調査と Minds 形式のガイドライン作成を次年度も継続する。

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Barbour T, Scully M, Ariceta G, Cataland S, Garlo K, Heyne N,

Luque Y, Menne J, Miyakawa Y, Yoon SS, Kavanagh D; 311 Study Group Members. Long-Term Efficacy and Safety of the Long-Acting Complement C5 Inhibitor Ravulizumab for the Treatment of Atypical Hemolytic Uremic Syndrome in Adults. **Kidney Int Rep.** 2021 Mar 24;6(6):1603-1613.

- 2) 日笠 聡, 渥美達也, 石黒 精, 金子 誠, 高橋芳右, 野上恵嗣, 藤井輝久, 堀内久徳, 松井太衛, 毛利 博, 森下英理子, 松下 正, 朝比奈俊彦, 天野景裕, 上田恭典, 岡本好司, 小亀浩市, 佐道俊幸, 瀧 正志, 長尾

梓, 西尾健治, 西田恭治, 西野正人, 藤村吉博, 松本雅則, 宮川義隆, 八木秀男, 和田英夫. von Willebrand 病の診療ガイドライン作成委員会. von Willebrand 病の診療ガイドライン 2021 年版. 日本血栓止血学会誌 32(4):413-481, 2021

H. 知的財産権の出現・登録状況

1. 特許取得 該当なし
2. 実用新案登録 該当なし
3. その他 該当なし